

「 岐阜県発日本一、世界一 ~8月~ 」

スポーツ健康課 スポーツ振興担当

大会、競技会名 (主催者名)		成績	入賞年月日	入賞者名、団体	岐阜県との関係 (在住、出身)	大会、競技会の概要(意義)
平成20年度全国高等学校総合体育大会						
陸上競技	女子七種競技	3位	H20.8.1	桐山 智衣 (県岐阜商高2年)		初日から気負いや緊張はなく、2位で折り返した。2日目ものびのびと競技し、順位は落としたものの苦手の800mも自己ベストを更新し、総合得点4861点の自己新で3位となった。 (埼玉県熊谷市:熊谷スポーツ文化公園陸上競技場)
	男子110m障害	3位	H20.8.2	和戸 達哉 (中津商高3年)		予選、準決勝では思うようにタイムが出せなかったものの、決勝では気持ちを切り替え、自己ベストに迫る14秒46で見事3位に輝いた。(同上)
ボクシング	学校対抗	2位	H20.8.3	岐阜工高		ライトフライ級が決勝、フライ級とバンタム級が準決勝まで勝ち上がるなど、各階級で健闘し、学校対抗として県勢初となる2位となった。 (埼玉県草加市:獨協大学35周年記念館アリーナ)
	ライトフライ級	2位	H20.8.3	華井 玄樹 (岐阜工高3年)		1ラウンドでは得意のストレートボディや左アッパーで相手を翻弄したが、2ラウンドでは逆に相手のカウンターを受け、その後、守りに入ってしまった。結果、9-11の僅差で判定負けとなり、惜しくも2位となった。(同上)
	フライ級	3位	H20.8.2	松原 陵 (岐阜工高3年)		善戦したが、惜しくも2ラウンド25秒でRSCとなり、3位となった。 (同上)
	バンタム級	3位	H20.8.2	岡本 智之 (岐阜工高3年)		準決勝では健闘したが判定負けで涙をのんだ。 (同上)
自転車	3km個人追い抜き	3位	H20.8.3	吉田 茂生 (岐南工高3年)		予選では、わずか0.003秒の差で決勝進出を逃したものの、3位決定戦では安定したペース配分と理想的な走りです3分34秒498をマークし、3位を勝ち取った。 (埼玉県大宮市:埼玉県営大宮公園双輪場)
	4km団体追い抜き	1位	H20.8.4	岐南工高		中盤から、劇的な追い上げを見せ、大会新記録となる4分30秒135を記録し、見事3年連続15回目の優勝を果たした。 (同上)
	ケイリン	2位	H20.8.4	岩瀬 拓真 (岐南工高3年)		決勝では、作戦通りの展開でトップをキープしていたが、フィニッシュラインまで残り数メートルという土壇場で逆転を許し、涙を吞んだ。(同上)
	ケイリン	3位	H20.8.4	近藤 龍徳 (岐阜第一高3年)		大会2連覇を狙って臨んだレースであったがゴール前でスピードに乗れず失速し、3位に終わった。(同上)
	トラック学校対抗	2位	H20.8.4	岐南工高		強豪・榛生昇陽(奈良)には及ばなかったが、各選手が個人種目でも力を発揮し、3位以下に大きく差をつけて2位の座を獲得した。 (同上)
	総合	2位	H20.8.5			
フェンシング	男子サーブル	1位	H20.8.5	水谷 一貴 (大垣南高3年)		圧倒的な強さで予選トーナメント、決勝トーナメントを勝ち上がり、決勝では絶妙な駆け引きで相手のペースを崩すと、一気に攻め込み、見事2連覇を達成した。 (埼玉県新座市:新座市民総合体育館)
	女子サーブル	3位	H20.8.5	小栗 奈津未 (羽島北高3年)		準決勝で敗れたものの、3位決定戦では気持ちを切り替え15-3で圧勝した。 (同上)

大会、競技会名 (主催者名)		成績	入賞年月日	入賞者名、団体	岐阜県との関係 (在住、出身)	大会、競技会の概要(意義)
ホッケー	女子	2位	H20.8.6	岐阜各務野高		順当に勝ち上がったが、決勝でライバル校である伊吹と激しいゲームを展開した。後半には3-3の同点とするも、決定的な場面でチャンスを生かすことができず、相手の連続得点を許し、4-6で試合を終えた。 (埼玉県飯能市:飯能市阿須ホッケー場)
重量挙げ	男子53kg級ジャーク	2位	H20.8.6	近藤 亮 (土岐商高3年)		苦手のスナッチで4位を確保したことで、緊張が解け、続くジャークでは105kgを成功させ、ジャーク、トータルと合わせて2個の銀メダルを手中に収めた。 (埼玉県さいたま市:さいたま市記念総合体育館)
	男子53kg級トータル	2位				
空手道	女子個人形	3位	H20.8.8	坂口 美保 (池田高3年)		5回戦まで快進撃を続けたが、準決勝では緊張で硬さが出てしまい、3位となったが、成績としては創部20年目での快挙であった。 (埼玉県行田市:行田市総合体育館)
ヨット	男子FJ級ソロ	3位	H20.8.20	海津明誠B (加藤、吉田、大倉、近藤)		第5レースまで高順位を重ね、着実にポイントを稼ぎ見事3位に輝いた。 (東京都江東区:東京都立若洲海浜公園ヨット訓練所)
第59回日本実業団水泳競技大会 男子100m背泳ぎ		1位	H20.8.3	竹内 勇紀 (大垣共立銀行)		昨年度は同大会、同種目で2位であったが、今年度は0.23秒タイムを縮め、リベンジに成功した。 (福井県敦賀市:敦賀市総合運動公園プール)
第78回全日本大学対抗卓球選手権大会 女子団体		1位	H20.8.10	朝日大		予選リーグを2戦全勝で通過すると、決勝トーナメントでは1試合ごとに力をつけ、決勝では強豪の立命館を3-2で下し、悲願の初優勝を果たした。 (広島県広島市:広島市東区スポーツセンター)
第29回オリンピック競技大会(2008/北京) 自転車競技 男子ケイリン		3位	H20.8.16	永井 清史 (日本競輪選手会岐阜支部)	岐阜第一高卒	敗者復活戦から再起をかけてレースに臨んだ。決勝では6周目で先頭に立ったが、ゴール前で逆転を許すも、最後は後続をかわし、日本勢としてはオリンピック同種目初となるメダルを獲得した。 (中国北京市:老山自転車館 laoshan Velodrome)
JOCジュニアオリンピックカップ 第38回全日本中学生ホッケー選手権大会 女子		2位	H20.8.19	各務原中央		全国から24チームが出場。予選リーグを2位で通過し、決勝リーグでは順調に勝ち上がったが、決勝は一方井中(岩手)に0-5で破れ、惜しくも2位となった。 (富山県小矢部市:小矢部ホッケー場)
平成20年度全国中学校体育大会						
柔道	女子70kg超級	1位	H20.8.21	渡部 紫織 (伊奈波中3年)		1回戦から決勝までの6試合中、4試合を1本勝ちでおさめ、貫禄の2連覇を果たした。 (石川県白山市:松任総合運動公園体育館)
新体操	種目別フープ	1位	H20.8.23	松原 梨恵 (長良中3年)		1種目でボールを落とすミスがあったが、次のフープでは持ち味の投げ技や回転技を決めフープ1位を獲得し、総合で2位となった。 (富山県射水市:新湊アイシン軽金属スポーツセンター)
	個人総合	2位	H20.8.23			
水泳	男子200m平泳ぎ	2位	H20.8.22	加納 雅也 (境川中3年)		200m平泳ぎは2分14秒04、100m平泳ぎは1分3秒03をマーク。それぞれ3位以下を大きく突き放しての準優勝であり、1位の中学新記録とは僅差であった。 (新潟県長岡市:ダイエーパレックスプール)
	男子100m平泳ぎ	2位	H20.8.23			
	女子200m個人メドレー	2位	H20.8.23	米倉 薫 (帝京大学可児中2年)		予選グループを1位で通過すると決勝では、2分17秒94をマークし2位を獲得した。(同上)
陸上競技	男子400mリレー	2位	H20.8.21	池田中		3位の出雲第一との接戦となったが、最後は逃げ切った。 (新潟県新潟市:東北電力ビッグスワンスタジアム)
	女子400mリレー	3位	H20.8.21	池田中		予選、準決勝と上位で勝ち上がると、決勝ではやや疲れが出て、タイムを落としたが、3位を獲得した。(同上)
剣道	男子個人	3位	H20.8.23	吉田 貴司 (赤坂中3年)		準決勝では面を2本先取され、惜しくも3位となった。 (富山県砺波市:富山県西部体育センター)

大会、競技会名 (主催者名)	成績	入賞年月日	入賞者名、団体	岐阜県との関係 (在住、出身)	大会、競技会の概要(意義)
第35回全日本大学ボート選手権大会 女子舵手付きクオドルプル	1位	H20.8.24	早稲田大 (藤、若井、玉川、渡辺、谷井)	若井江利 (早稲田大4年) 加茂高卒	予選から、他の追従を許さぬ速さでレースを支配し、全レース1位の強さで見事2連覇を達成した。 (埼玉県戸田市:戸田ボートコース)
世界ボウリング選手権男子大会2008 トリオの部	2位	H20.8.25	高橋 俊彦 (昭和コンクリート工業)		準決勝でダブルス優勝者2人を含む強豪アメリカを下す快挙で決勝に進出。決勝では韓国チームに負けたものの、日本勢としては17年ぶりのメダル獲得となった。 (タイ・バンコク:SFストライクボウル)
第43回全国都道府県対抗自転車競技大会 少年男子2万4千mポイントレース	1位	H20.8.26	丹羽 泰雄 (岐南工高3年)		圧倒的な強さで2位以下を引き離し、62点で優勝を決めた。 (新潟県魚沼市:坂戸山・しゃくなげ湖周回特設ロード・レース・コース)
第31回全国JOCジュニアオリンピックカップ 夏季水泳競技大会					
女子200m個人メドレー	1位	H20.8.28	米倉 薫 (コバン可児・帝京大学可児中2年)		全国中学校体育大会を上回る2分17秒68を記録し、大会新記録で見事優勝を果たした。 (東京都江東区:東京辰巳国際水泳場)
男子100m平泳ぎ	2位	H20.8.28	加納 雅也 (岐阜中央SS・境川中3年)		100m平泳ぎでは惜しくも優勝を逃したが、50m平泳ぎでは気持ちを切り替え、自己ベスト、さらに大会新記録である29秒46をマークし、見事優勝を決めた。 (同上)
男子50m平泳ぎ	1位	H20.8.30			
男子400mメドレーリレー	2位	H20.8.30	岐阜中央SS (高島、加納、改田、桐山)		途中、200m地点でトップに立つ場面があったが、最後は逆転され惜しくも2位となった。(同上)
文部科学大臣杯 第64回全日本大学対抗選手権自転車競技大会					
男子ポイントレース(40km)	1位	H20.8.29	柴田 一樹 (朝日大4年)		前半から先行する積極的なレースで、得点を重ね、2位に2点差の接戦を制した。 (長野県松本市:かりがね自転車競技場)
男子1kmタイムトライアル	3位	H20.8.29	横関 裕樹 (朝日大2年)		ゴール付近の混戦を抜け、1'07.468で3位となった。(同上)
女子16kmポイントレース	3位	H20.8.29	明珍 裕子 (朝日大1年)		トータルポイント13で3位に入った。(同上)